

SNS とのつきあいかた

たのしい？こわい？そもそも何？
すっかり身近になったSNSとの、上手な
つきあいかたがわかる本を紹介します！

使ってみたい！

- 『最新LINE&Instagram & Twitter & Facebook & TikTok
ゼロからやさしくわかる本 第3版』
桑名由美・小木曾健／秀和システム／2022.11
- 『今すぐ使えるかんたんLINE&Instagram & Twitter &
Facebook完全ガイドブック困った解決&便利技 改訂2
版』リンクアップ／技術評論社／2022.3
- 『noteではじめる新しいアウトプットの教室ー楽しく続
けるクリエイター生活ー改訂版』
コグレマサト・まつゆう＊／インプレス／2021.4
- 『集まる！刺さる！SNSでウケる中国語』
秋山耀平／明日香出版社／2019.9

各館のPCコーナーに、各種SNS
実用書を取りそろえています！

保谷駅前図書館
ビジネスコーナー
もみてみてね

ビジネスに！

- 『話題を生み出す「しくみ」のつくり方ー情報拡散構造
から読み解くヒットのルールー』
西山守(著) 濱窪大洋(編集協力)／宣伝会議／2021.3
- 『デジタル時代の実践スキル SNS戦略ー「わかる」か
ら「できる」へ目に見える具体的な成果が出せる！顧客
と共感を集める運用&活用テクニックー』
後藤真理恵／翔泳社／2020.8

SNSをよみとく

- 『SNS変遷史ー「いいね！」でつながる社会のゆくえー』
天野彬／イースト・プレス／2019.10

手軽さの危うさ...

- 『炎上社会を考えるー自粛警察からキャンセル
カルチャーまでー』
伊藤昌亮／中央公論新社／2022.1
- 『ディープフェイクーニセ情報の拡散者たちー』
ニーナ・シック(著) 片山美佳子(訳)／日経ナショ
ナルジオグラフィック社／2021.9

SNSに振り回されない！

- 『一億総SNS時代の戦略』
カレー沢薫／秋田書店／2021.2

第9回

書名でしりとり

書名の最後の1字で次の本へ
つなげていく企画
第9回の文字は前回の書名から
「し」です。

『食卓一期一会』

(長田 弘／著 角川春樹事務所 2017.11)

食卓には、たくさんの食材が様々な姿に
なって上がっています。人生が凝縮された
食卓に目を向けて、鮮やかな色や音、にお
いで彩られた66篇の食べものの詩を愉し
んでみてください。

寒い冬、豊かな食卓の言葉に触れて心暖
かに過ごせるかもしれません。



2022年12月-2023年1月号

特集1

SNSとのつきあいかた

特集2

文章を書くのはムズかしい？

連載

書名でしりとり

お知らせ

西東京市図書館からのお知らせ
FM西東京で紹介した本

文章を書くのは ムズかしい？

“てにをは”を始めとした助詞の正しい使い方や、コピーライトのように逆に極限まで文字を削る方法まで、文章を書くうえで知っておきたい情報はたくさんあります。今回はいろんな場面できっと役に立つ、文章作成に関する本をご紹介します。

世界一ラクにスラスラ書ける文章講座
山口拓朗／かんき出版／2019.12

3つのテンプレートに当てはめるだけで、あらゆる文章が「うまく」「思い通り」に書ける！媒体別にスラスラ書ける文章作成術を、具体例とともに伝授する。

名作コピーの教え
鈴木康之／日本経済新聞出版社／2015.7

人を動かす文章、読ませるコピーはどう作るか？ コピーを学ぶ人にとって勉強になりやすい名作コピーを選び、その魅力を解き明かす。

心を伝える、すぐに役立つ手紙・はがき・一筆箋の書き方マナー大全
杉本祐子／主婦の友社／2021.1

便箋・封筒を使う礼儀正しい手紙の基本から、一筆箋やカードに向く気軽なメッセージまで、さまざまな目的に応じた文例を豊富に紹介する。

語彙力がなくても「伝わる」ビジネスメール術
飯間浩明／朝日新聞出版／2022.3

ビジネスメールにおいて、使い慣れた言葉を使いつつ、情報や気持ちを正しく伝えるコツを紹介。すぐに使える、状況・相手別のメール文例も多数掲載する。

大学生のためのレポートの書き方
佐渡島紗織ほか／ナツメ社／2022.8

大学におけるレポート課題の目的別に、課題に取り組むにあたっての要点をアドバイス。書き始め例や卒業論文を書くにあたっての考え方、文章作成技術も紹介。

西東京市図書館からのお知らせ

年末年始休館のお知らせ
令和4年12月28日(水)から
令和5年1月3日(火)まで

休館中はインターネットからの予約、各ブックポストのご利用ができません。
ご不便をおかけいたしますが、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

F M西東京で紹介した本

『ばあばのおせちー健康と幸せを招くー』

(鈴木登紀子／著 文化学園文化出版局 2020.11)

正月三が日にいただくおせち料理。昔は三が日にお店が開いていなかったのも、忙しなく台所で働かなくても良い保存食であるとともに「新しい年も家族が幸せであるように、みんなで神様と同じものをいただく」といった日本文化的な意味合いもあるそうです。「ばあば」の愛称で親しまれる著者が、70有余年も研鑽を重ねたおせち料理のレシピを紹介する本。地域によって内容も変わるため、初めて見るものもあるかもしれません。

『二十四節気の暦使い暮らし-かんぼう歳時記-』

(櫻井大典／著 ワニブックス 2022.10)

古来、“暦”の役割は、将来起こることを事前に知り、備えるためにするべきことを知り、先の暮らしを豊かにするための“指標”でした。それは私たち自身の体も同じこと。いったん心身に不調をきたすと回復には時間がかかりますが、不調にならないよう準備することができる、それが中医学のいう“養生”なのだそうです。この本には、二十四節気に沿った、あらゆる不調を防ぎ、日々をより豊かに過ごすための古の知恵が詰まっています。忙しい年の瀬、かんぼうで「養生」してみては。

発行：西東京市図書館

<http://www.library.city.nishitokyo.lg.jp>